

平成24年度第4回小牧市環境審議会 議事要旨

日 時	平成25年2月19日（火）午前10時～11時15分
場 所	小牧市役所本庁舎6階601-2会議室
出席者	<p><b>【委員】</b></p> <p>◎石川徳久（中部大学工学部教授）          ○稲垣孝子（小牧市女性の会会長）          石井紘一（公募委員）          大橋昌己（こまき環境ISOネットワーク）          岡田憲久（名古屋造形大学大学院・造形学部教授）          末松雅彦（こまき環境市民会議副会長）          谷口文男（小牧商工会議所環境対策委員会副委員長）          鳥居郁夫（愛知県地球温暖化防止活動推進員）</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>柴田環境交通部長          廣畑環境交通部次長          伊藤環境対策課長          仲根廃棄物対策課長          小林交通防犯課長          丹羽環境対策課長補佐          水野政策推進係長          朝日主事          中外テクノス（株）加藤氏</p>
欠席者	2名（馬場容子委員、本庄肇委員）
傍聴者	0名
配布資料	<p>資料1           パブリックコメント意見の概要及び市の考え方について          資料1-1       パブリックコメント意見（全文）          資料2           第二次小牧市環境基本計画の答申（案）について          資料3           第二次小牧市環境基本計画（案）（概要版）</p>

## 主な内容

### 1 あいさつ（石川会長）

- ・中国の大気汚染は昔の日本を思い出す。
- ・今回はパブリックコメント意見への対応と答申の審議をお願いします。

### 2 議題

#### （1）パブリックコメント意見の概要及び市の考え方について

- ・事務局より、資料1、1-1を用いて説明。
- ・意見等は以下のとおり。

（委員）意見 No.1 については、同様の意見である。望ましい環境像は、いつからこの表現になったのか。

（事務局）第一次計画を策定した平成15年からこの表現となっている。

（委員）自然環境を意識した表現で、都市化が進む本市では違和感がある。市民は身近な環境から離れたことのように感じ、何をしたらいいのかわからないのではないか。

（会長）市民は傍観者ではなく、自分たちがやっていくんだという気持ちにさせるような表現がよい。

（委員）具体的にイメージがわくような表現、サブテーマがあるといい。

（委員）環境は非常に領域が広い。自然環境、生活環境、地球温暖化などを整理して、環境の問題を処理するために少しわかりやすい趣旨やキャッチフレーズで補えばいいと思う。

（委員）タイトルの下に「環境都市こまき」とあるので、このままで問題ないと思う。どんなすばらしいタイトルにしても環境は変わらない。下位にある施策や事業メニューをどう進めていくかが重要である。

（委員）環境の領域、全体の施策体系につながる説明が、計画の趣旨を示すところにあるといい。

（委員）意見者が計画書をよく読んでいれば、環境像のイメージは十分理解できたと思う。

（会長）自然環境の保全と利便性は相反するが、それをバランスよく保つのが環境対策。自然を守るという基本を環境像で示しているということなら問題ない。産業や生活のことなどを書く、細かい話になってくる。

（委員）自然を守るという意識を持ってもらいたい。そういうところを理解してもらえればいい。

（会長）自分が子どもの頃と、自然環境は大きく変わってきている。産業や利便性を求めた結果である。

（事務局）計画書の13ページ、2段落目に「いま、都市化の進展は、（中略）創造していかなければなりません。」と説明しているので、環境像についてはそれで理解してもらえると考えている。

（会長）それでよろしいか。

- (委員) 異議なし。
- (委員) 意見 No.6 で、電灯・電力の表現については中部電力に確認した方がよいとあるが、確認したのか。
- (事務局) 確認は取っていないが、誰が見てもわかりやすいとの判断で表現を変更した。
- (委員) せっかくパブリックコメントでいただいた意見なので、確認した方がいい。もっといい案ももらえる可能性もある。今後、よいものを望むということであれば、しかるべき対応をとるようにしてもらいたい。
- (事務局) 精査しながら、きちんと対応していきたい。
- (委員) 結局、パブリックコメントというのは細かい意見になるが、一つひとつ対処していくことが重要である。

## (2) 第二次小牧市環境基本計画の答申(案)について

- ・事務局より、資料2を用いて説明。
  - ・意見等は以下のとおり。
- (委員) 計画書の17ページに「市は、小牧市の目指す環境像やイメージを多方面で発信」とあるが、どんなイメージか。
- (事務局) パブリックコメントの意見 No.8 で回答したように、望ましい環境像などを幅広く発信していく。
- (事務局) 答申(案)4行目、環境像のタイトルに「環境都市こまき」が抜けているので訂正する。
- (委員) 計画書の18ページでは、はじめは「事業メニュー」と書いてあるが、あとは単に「事業」になっているので、読みやすいよう「事業メニュー」で統一した方がいい。
- (事務局) 確認し、修正すべき部分は修正する。
- (委員) 事業メニューは毎年見直すとしているが、中間見直しは行うのか。
- (事務局) 事業は1年単位なので中間見直しは行わず、1年ごとに取り組んだ結果を見ながらPDCAサイクルをまわしていく。
- (委員) 1年間取り組んで達成できなかったら、事業を削除していくような表現になっているので中間見直しをするということではないか。事務局の責任者は誰になるのか。
- (事務局) 担当課で言えば、環境対策課の課長になる。部としては環境交通部の部長になる。
- (委員) その規定はあるのか。
- (事務局) 資料編7ページに審議会規則があり、その庶務は環境交通部環境対策課と明記してある。また、規則で環境対策課の事務分掌は明記され、共有もされている。
- (委員) ISOの本質はトップダウン方式。誰が運用主体かを明確に提示した方がいい

い。「事務局」だけでなく、責任と権限も明確にした方がいい。

(会 長) 基本的に事務局は責任と権限を持って対策を進めていくし、担当も決められる。具体的な担当者まで明記しなくても、全体として事務局が責任を持って進めていくと思う。

(委 員) 毎年度の見直しについてはどうか。

(事務局) 計画書の31ページにあるとおり、年次報告書で年度のとりまとめを行う。中間見直しは行わない。

(会 長) どうやって改善していくかを考えながら進めていく。

(委 員) 効率のいい事業を選び、いい方向に進めていってもらいたい。

(事務局) 貢献度の高いものを精査しながら進めていきたい。

### (3) その他(第二次小牧市環境基本計画(案)概要版について)

(委 員) 望ましい環境像について、タイトルだけではわかりにくいという議論が先にあった。概要版にも計画書本文中の説明文を入れるとわかりやすいと思う。

(事務局) レイアウトを調整し、その記述を入れるようにする。修正については、事務局一任でお願いしたい。

(委 員) 異議なし。

(会 長) 前回策定時は概要版を作成したのか。

(事務局) 見開き程度のものを作成した。

(委 員) 「市民がつくる」という表現があるといい。

(委 員) 今の説明文にも市民の記述があるので、本文中の説明文を追記し、該当部分を太字にするなどで対応できると思う。

(委 員) 書体はこのままなのか。表紙に記述した環境像の前後にある「ー」は個人的に好きではない。また、「環境都市こまき」の前についている「～」は、後ろにも入れるのが一般的ではないか。

(事務局) 皆様のご了承があれば修正する。

(委 員) 了承。

以上